

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	保健・体育 I Health and Physical Education I		単位 3
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・保健体育	授業形態・学期	その他・通年
	対象学生	1 年共通	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	必修
	担当教員・所属系	荒木祥一・総合理工学科先進科学系 内倉康二・総合理工学科機械システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	複合領域／健康・スポーツ科学		
	学科学習目標との関 連	本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B-3) 芸術やスポーツ をとおして広く教養を身に付け、これに基づいて自己表現できるこ と」であるが、付随的に「(D-3) 課題解決のために他者と共通認識を 形成しながら、組織的な取り組みができること」である。		
	授業の概要	保健においては「現代社会における健康のあり方」を、体育におい ては各種スポーツを通して、基礎的な体力を保持・増進しながら、運 動の特性について理解を深めていく。		
	学習目的	各種スポーツを行うなかで、個人的、集団的運動技術を習得しなが ら、様々な運動課題に対して自ら学び考え、解決していく力を身につ ける。さらに、グループとしての活動を通して、「他者の意見を聞く こと」、「他者と協力すること」といった、集団行動に必要な力を身につ ける。また、保健においても体育同様には、今日の健康に関する各種 問題について理解を深めつつ、自ら考え、解決していく力を身につけ る。		
	到達目標	1. 各種スポーツの技術・戦術を理解し、実施できる。 2. 他者の意見を正しく理解し、他者の意見に対する、自らの意見を明 確に表現できる。 ◎ 3. 周囲の状況と自らの立場を照らし合わせ、自身の長所を活かしな がら集団の中で行動ができる。 4. 課題の解決や目標達成のために、自らの役割を認識し、率先して行 動したり、他者と協調して行動したりすることができる。		
履修上の注意		学年の課程修了のためには履修（欠席時間数が所定授業時間数の 5 分 の 1 以下）・修得が必要である。 運動に適した服装で、装飾品（時計、ネックレス等）を一切身に付け ていない状態で受講すること。		

履修のアドバイス	特別なアドバイスはないが、今後、学年が上がるごとに高度な運動技術が要求されていくので、その素地をしっかりと身につけるようにする。
基礎科目	中学校までの保健体育
関連科目	保健・体育Ⅱ（２年），保健・体育Ⅲ（３），体育（４）

様式 B 保健・体育Ⅰ（荒木／内倉）

授業にかかわる情報			
授業の方法		体育においては、基礎的な技術を学んだ上で、ゲームを中心とした授業を実施する。なお、天候等により、内容を変更することもある。また、保健の授業は板書・プリント等を用いた説明を中心に具体的事例を取り上げながら進めていく。	
授業計画	開講週		内容〔項目〕（指示事項）
	前期	1 週	前期ガイダンス
		2 週	スポーツテスト
		3 週	スポーツテスト
		4 週	陸上競技（ジャベリックスロー・走り幅跳び等）
		5 週	陸上競技（ジャベリックスロー・走り幅跳び等）
		6 週	陸上競技（ジャベリックスロー・走り幅跳び等）
		7 週	器械運動（マット運動）
		8 週	器械運動（マット運動）
		9 週	器械運動（マット運動）
		10 週	水泳（クロール・平泳ぎ）
		11 週	水泳（クロール・平泳ぎ）
		12 週	水泳（クロール・平泳ぎ）
		13 週	水泳（クロール・平泳ぎ）
		14 週	水泳（クロール・平泳ぎ）
		15 週	水泳（クロール・平泳ぎ）

	後 期	16 週 バスケットボール 17 週 バスケットボール 18 週 バスケットボール 19 週 バスケットボール 20 週 バスケットボール 21 週 バスケットボール 22 週 バスケットボール 23 週 バスケットボール 24 週 バスケットボール 25 週 バスケットボール 26 週 陸上競技（長距離走），保健（1 時間／週）（天候次第でニュースポーツを実施） 27 週 陸上競技（長距離走），保健（1 時間／週）（天候次第でニュースポーツを実施） 28 週 陸上競技（長距離走），保健（1 時間／週）（天候次第でニュースポーツを実施） 29 週 陸上競技（長距離走），保健（1 時間／週）（天候次第でニュースポーツを実施） 30 週 陸上競技（長距離走），保健（1 時間／週）（天候次第でニュースポーツを実施）
教科書，教材等		教科書：大修館書店編集部『図説現代高等保健体育』（大修館書店） 参考書：高橋健夫ほか（編）『ステップアップ高校スポーツ』（大修館書店） その他，授業に応じてプリントやビデオを使用する。
成績評価方法		授業での小テスト（50％：個人的及び集団的技術の理解・習得ができてい るか），課題解決能力の判定（30％：毎回授業に参加し，自らの技術上の課題 を認識し，他者の意見を参考にしながら，自らの能力向上に努めているか）， 主体性及び協調性の判定（20％：授業において，自ら率先して行動したり， 他者と協力したりできているか）を総合して評価する。なお，遅刻や欠課は 成績に反映される。
受講上のアドバイス		授業開始時間から 5 分を超えて授業に参加した場合は「遅刻」、20 分を超 えて授業に参加した場合は「欠課」扱いとする。さらに 4 回の遅刻で 1 回の 欠課とみなす。実技系科目であるので，毎回の授業に出席することが大切で あるが，「出席さえしておけばよい」「テストさえできればよい」という考え を持たないこと。毎回の授業を通して，常に自分の能力を向上させようとす る意欲と態度を持ちながら授業に取り組むことが大切である。服装や授業の 準備・後片づけ，審判や得点係などの仕事についても，スポーツにおいて重 要なものであることを学び，実践して欲しい。

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	各種スポーツの技術・戦術を理解し、さらに体现できる。		各種スポーツの技術・戦術について理解している。		各種スポーツの技術・戦術について 5割程度理解している。		各種スポーツの技術・戦術についてまったく理解していない。
評価項目 2	他者の意見を理解し、それを踏まえて自らの意見を表現できる。		他者の意見をいつでも聞くことができる。自らの意見をいつでも表現できる。		他者の意見を聞くことができる。自らの意見を表現しようとすることができる。		他者の意見を全く聞き入れない。自らの意見を全く表現できない。
評価項目 3	置かれた状況を理解し、その中で、自らの長所を発揮しながら集団の中で行動できる。		集団の中で、どういった状況に置かれているのかを理解することができる。また、集団の調和を乱すことなく行動できる。		集団の中で、 どういった状況に置かれているのかを理解しようとする。		置かれた状況に関わらず、自らの欲求を満たす行動を取り、集団の調和を乱す。
評価項目 4	課題解決や目標達成のために、何が必要であるかがわかり、他者と協調しながら、自らすべきことを遂行することができる。		課題が何であるのかを認識することができる。また、その解決や目標の達成に向けて努力することができる。		課題を認識しようとし、課題を解決する手段を考えることができる。		課題が何であるのかを認識することができていない。また、目標の達成に向けて行動を伴わない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	授業態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	20	30	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	20	30	50	100